

上野中学校 水泳の授業における感染症対策について

2021年6月吉日
東海市立上野中学校

本校では、7月1日（木）～7月19日（月）までの期間、水泳の授業を実施します。水泳の授業においては、多くの生徒が同時にプールや更衣室を使用したり、複数の生徒が組になる形態で安全の確認をしながら学習を行ったりするなど、生徒の密集・密接の場面が想定されるため、様々な感染リスクへの対策を講じる必要があります。令和3年4月9日付で、スポーツ庁から出されている「学校の水泳授業における感染症対策について」に基づき、健康と安全を第一に考え、学習の内容や形態、授業の実施場所や時期等を総合的に考慮しながら、感染リスクへの対策を講じ、授業を行ってまいります。本校の感染症対策は、以下の通りです。

1. 学校プールについては、学校環境衛生基準（平成21年文部科学省告示第60号）に基づき適切に管理すること。特にプール水の遊離残留塩素濃度については、プールのどの部分でも基準の濃度となるように管理すること。また、ドアノブやシャワーや洗眼器の水栓など生徒が手を触れる箇所は、適宜消毒を行うこと。

遊離残留塩素濃度について

○学校環境衛生基準において定められている、「遊離残留塩素濃度」の基準に準じて行う。

- ・ **0.4mg/L以上**であること。また、**1.0mg/L以下**であることが望ましい。
- ・ 検体の採取場所は、プール全体の水質が把握できる場所とし、長方形のプールではプール内の対角線上におけるほぼ等間隔の位置3ヶ所以上の水面下20cm及び「循環ろ過装置の取水口付近が原則。



【図1】

○基準値を下回らないように、**適宜塩素剤を注入**する。

○専用の測定器【図1】を使用し、**毎授業前に授業者及び監督者が測定**を行う。

消毒について

○毎授業終了後に、授業者及び監督者が**ドアノブ及びロッカー等の消毒**を行う。【図2、3】

○毎授業終了後に、体育係及び学級三役の生徒で、生徒が通る**導線やプールサイドにプールの水を流して消毒**を行う。【図4】



【図2】



【図3】



【図4】

2. 毎朝の検温や健康観察により学習前の生徒の健康状態を把握し、体調がすぐれない生徒の水泳授業への参加を見合わせる。

授業を見学する生徒については、気温が高い日などは、熱中症にならないよう、日陰で見学させたり、必要に応じてマスクを外し、他の生徒との距離を2m以上確保したりするよう指導すること。

健康状態の把握について

- 毎日学校に提出されている「健康観察カード」で健康状態を把握する。
- 健康状態に問題が見られる生徒又は学校生活中に体調不良になった生徒は、養護教諭及び教科担任の判断で見学とする場合もある。
- 学校に来る前に体調不良や怪我等で見学が決まっている場合は、生徒手帳 P40～の学校と家庭の連絡欄に、保護者の方から理由の記入と押印をして頂き、担任及び教科担任に提出すること。（「水泳指導事前健康調査」で「見学」にしている場合は、提出の必要はない）

見学者について

- 見学者は、常設テントの下で見学する。その際、見学者同士との間隔を 2 m 以上 空けることとする。間隔を空けることが難しい場合は、事務室で見学させる場合もある。
- 熱中症の危険がある場合は、保健室で休ませる場合もある。

3. 授業中、生徒に不必要な会話や発声を行わないよう指導するとともに、プール内で密集しないよう、プールに一斉に大人数の生徒が入らないようにすること。プール内だけでなくプールサイドでも生徒の間隔は 2 m 以上保つことができるようにすること。

活動の流れについて

①移動及び準備運動

- ・更衣室に入る前に手洗い、消毒を行う。
- ・タオル、帽子、ゴーグルを入れた黄ナップ（市販のプールバックでもよいが、黄ナップが望ましい）を持って更衣室から移動する。
- ・移動及び準備運動の際は、必ずマスク着用する。
- ・準備運動の際は、男女で対面のプールサイドに分かれ、間隔を空けて行う。（黄ナップは手に持ったままで行う）

②シャワー

- ・黄ナップにマスクを入れ、帽子とゴーグルを取り出す。黄ナップは指定の場所に取り付けて保管する。【対策 6 参照】
- ・全身しっかりとシャワーを浴びる。

③プールサイドから水慣れ及び入水

- ・帽子、ゴーグルを装着する。
- ・一度に入水できるのは、男女別で 1 2 人まで とする。（補助の生徒は人数に含まない）
- ・1 2 人までのグループを作り、腰掛けキック 【図 5】 → 水かけ → ポビングジャンプ 【図 6, 7】（プールサイドから男女を分けるために張られたコースロープまでの往復） + α を順に行い、一度プールから上がった後、次のグループと交代する。



【図 5】



【図 6】



【図 7】

④泳法の学習（各学年7時間完了を予定）

- ・1年生は、クロール及び背泳ぎ，2年生は、クロール及び平泳ぎ，3年生は、クロール（ターンを含む）及び平泳ぎを中心に学習を進める。
- ・適宜、陸上の活動【図8，9】と水中の活動に分けて，密にならないように配慮する。



【図8】



【図9】

- ・泳ぐ間隔，方向を一定にし，ゴール付近で密にならないように配慮する。対面交差で泳ぐ活動が必要な場合は，壁にタッチする前に次泳者がスタートできるようにする。
- ・プール内で，唾や痰を吐くことは極力行わないようにする。万が一，吐きたい場合は，授業者に申し出てプールから上がり，洗眼器（現在は洗眼に使用していない）で吐き，よく洗い流す。

⑤整理運動

- ・整理運動の際は，授業者が笛を使って指示を出し，生徒は発声しないように配慮する。また，間隔を空けて行う。

⑥シャワー及び移動

- ・全身しっかりとシャワーを浴び，黄ナップからタオルを取り出して水気を拭き取る。
- ・十分に水気が拭き取れたらマスクを着用し，黄ナップを持って更衣室へ移動する。

4. 授業中，手をつないだり，体を支えたりするなど，生徒が密接する活動は避けること。例えば，バディシステムについても，生徒によるプールサイドでの人数確認は，事故防止の上で重要であるが，複数の生徒が組になる形態であるので，感染リスクに十分注意して運用すること。

密接する活動について

- 消毒作用のある水中での活動は，感染リスクが低いため，身体接触のある補助活動も行う場合がある。しかし，息が直接かかればリスクも高まるため，対面にならないように十分配慮して活動を行う。（壁キック【図10】や板キック【図11】の補助等）



【図10】



【図11】

バディシステムについて

- バディシステムとは，二人一組をつくり，互いに相手の安全を確かめる方法で，事故防止のみならず，学習効果を高めるための手段としても効果的である。
- 通常は，教師の合図で互いに片手をつなぎ合わせてあげさせる点呼の取り方が多いが，感染リスクを避けるため，バディ同士の距離を保ち，声を出さずアイコンタクトで行う。アイコンタクトができれば，二人で揃えて手を上げて確認する方法で行う。

5. 更衣室については、生徒の身体的距離を確保することが困難である場合は、一斉に利用させず少人数の利用にとどめること。更衣室利用中は、 unnecessaryな会話や発声をしないよう生徒に指導すること。水泳の授業中はマスクを外すことになるので、マスクの適切な取扱いについて指導するとともに、更衣室利用の前後に手洗いを徹底すること。また、更衣室のドアノブやスイッチ、ロッカーなど生徒が手を触れる箇所は、適宜消毒を行うこと。

更衣室について

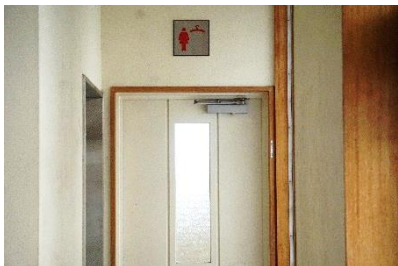
○更衣は、以下の場所で行うこととする。

《男子》

4つの場所に分かれて更衣を行う。

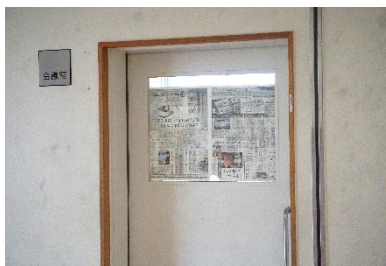
①②体育館更衣室1・2

【定員11名ずつ】



③体育館会議室

【定員12名】



④体育館内特設更衣室

【定員10名】



※番号シールが貼られた場所及び机で、間隔を空けて更衣を行う。

《女子》

2つの場所に分かれて更衣を行う。

①②プール更衣室1・2

【定員18名ずつ】



※○印がついたロッカー及び机で、間隔を空けて更衣を行う。

○更衣室利用中は、 unnecessaryな会話や発声をしないようにする。

○【対策1】の通り、毎授業終了後に、授業者及び監督者がドアノブ及びロッカー等の消毒を行う。

6. 水泳の授業で児童生徒が使用するタオルやゴーグルなどの私物の取り違えや貸し借りをしないよう指導すること。

タオル、マスクの保管について

- 原則、更衣中や準備運動時はマスクを着用する。
- 所定の位置に、タオルとマスクを入れた黄ナップをフックで取り付け、取り違えがないように配慮する。【図 12, 13, 14】



【図 12】



【図 13】



【図 14】

- タオルやゴーグル等の借り貸しをしないように注意を促す。
- 持ち物には全て名前を記入する。

☆全体図

